

第7回コミュニケーション推進チームにおける 委員からの主なご指摘事項とその対応について

令和6年3月8日

環境省

委員からの主なご指摘事項とその対応①

	ご指摘事項	環境省の回答
戦略レビューについて	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国的な理解・信頼醸成の段階について、認知、興味、理解、共感、社会的受容のステップ自体は非常に良いが、実際には頭では理解したけどもやはり自分は受け入れられないという方もいるし、福島の方への共感がある方など、いろいろな考えの方がいるので、認知・興味、理解、共感、受容の4段階の指標をうまく使っていただくと良い。(大沼委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 戦略の進捗評価や課題の整理に当たっては、ご指摘の点にも留意しながら検討を進めて参りたい。
WEBアンケート等の分析について	<ul style="list-style-type: none"> ● IAEAのサマリーレポートにも、福島県外の方が認知度が低いことに留意するよう指摘があったので、県外での受け止め方の違いの検討が必要。(大沼委員) ● 過去のアンケートも、貴重なデータであり、もう一度洗い直すことも必要であると同時に、環境省以外の調査結果のデータも突き合わせた洗い直しは実施した方が良い。(大沼委員) ● アンケートの記述式の部分を構造的に解析するとよいのではないか。(竹田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ● WEBアンケートの経年の結果分析を行い、県内外の受け止めの違い等について、引き続き分析を進めて参りたい。 ● 過去のアンケート以外のデータについても、可能な限り収集・分析し、施策の企画等に活かしていく。 ● アンケートの記述式の部分については、施策の企画等に活かせるよう、テキストマイニング等の解析方法等について検討していく。
広報・理解醸成の取組内容について	<ul style="list-style-type: none"> ● ALPS処理水に関する広報周知・理解醸成の取組をぜひ参考にしながら、長所と短所を分析して、うまく活用できればよい。(高村座長) ● 今は(広報)拠点が福島県内に限られているが、出張展示を考えても良いと思う。若い人に興味関心を持ってもらうために、敷居の低い取組を検討してはどうか。(高村委員) ● 小規模な車座対話は、ノウハウが結構あるはず。試行的実施をする際に、検討することを明確にすると、例えば進捗状況の確認や、取組目標への反映に生かすことができるので、しっかり相談しながら決めていくべき。(竹田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ALPS処理水に関する広報については、今後の施策の企画等に辺り参考にしていく。 ● 県外の他のイベントへの出張展示等について引き続き取組を進めるとともに、若年層がアクセスしやすい情報発信の取組(SNS等)についても、引き続き取り組んでいく。 ● 小規模車座の試行的実施については、今回のCTでの御意見も踏まえつつ、まずは3月末に実施した上で、そこで得た知見等を踏まえて、今後の取組方針について検討していく。

委員からの主なご指摘事項とその対応②

	ご指摘事項	環境省の回答
理解醸成の取組に当たり説明等すべき内容について	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数の大学で講義する機会があったが、県外最終処分の本質がわかりづらかった。例えばなぜ30年なのか、なぜ県外が必要なのか、プロセスの一番初めの部分が資料として本当にちゃんと公開されているのか、出来る範囲でもう少し丁寧に公開していく必要がある。(万福委員) ● 方向性は決まっているが、細かいことは決まっていないことについて、決めることを先延ばしているとか、マイナスの印象を与えている。しっかりプロセスを進めていることを発信できる伝え方を検討すべき。(保高委員) ● 減容化や分別、焼却、灰の管理の技術はこの数年間で進んでいると思う。具体的な技術の内容や、安全性がわからないと、共感にはつながらないので、開示をしていく必要がある。(万福委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各WGで技術的な検討成果も出てくる中で、最終処分や再生利用の必要性・安全性等について、国民の皆様に分かりやすく、丁寧な情報発信が必要であると考えており、そのための手法等については、CTの有識者の御助言等も踏まえつつ、更に検討を深めてまいりたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 今は全方面的にアプローチしているが、今後関わる地域のステークホルダーになる可能性がある方に対しての重点的な情報伝達も、一つ方法としてあるかと思う。(保高委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域WGでの議論と連携しつつ、地域のステークホルダーへの情報発信のあり方は検討を進めて参りたい。